

平成27年漁期 すけとうだら漁獲可能量(TAC)期中改定案について

資料2-3

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考
		水準	動向	25年	26年	27年当初	27年再評価	漁獲シナリオ(管理基準)	25年	26年	27年当初	27年改定案	
すけとうだら													<p>【27年TAC設定の考え方】</p> <p>【日本海北部系群】 中期的管理方針に則して「③親魚量の増大(0.74万トン)」と同数のTAC(案)7,400トンとする。</p> <p>【オホーツク海南部】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、近年の最大漁獲量である24年漁期の52,023トンに基づき、TAC(案)53,000トンとする。</p> <p>【根室海峡】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、近年の最大漁獲量である23年漁期の19,115トンに基づき、TAC(案)20,000トンとする。</p> <p>【太平洋系群】 中期的管理方針に則して「②親魚量の維持(17.7万トン)」と同数のTAC(案)177,000トンとする。</p>
	日本海北部	低位	減少	0.76 (0.65)	0.65 (0.90)	0.74	0.67	親魚量の増大 (③)	1.3	1.3	0.74	0.74	<p>【27年TAC期中改定の考え方】</p> <p>【根室海峡】 来遊量増加により漁期開始から9月末までの漁獲量が、近年の最高値で推移していることから、漁期末までに見込まれる27,000トンにTAC数量を改定する。</p>
	オホーツク海南部	中位	増加	-	-	-	-	-	5.2	5.3	5.3	5.3	<p>【太平洋系群】 当初TAC設定のベースとしたABCの再評価結果が183,000トンとなったことから、これに合わせた数量183,000トンにTAC数量を改定する。</p>
	根室海峡	低位	横ばい	-	-	-	-	-	2.0	2.0	2.0	2.7	<p>※TACの管理期間は、「4月～翌年3月」</p>
	太平洋	中位	減少	16.6 (18.0)	15.7 (21.0)	17.7	18.3	親魚量の維持 (②)	17.1 (18.0)	17.1 (21.0)	17.7	18.3	
合計								25.6 (26.5)	25.7 (29.6)	25.74	27.04		

注1)オホーツク海南部及び根室海峡は、詳細な生態や資源状況が不明なことから、ABCの算定を行っていない。

注2)太平洋は、25年に先行利用(1万トン)の配分を実施したが、利用実績はなし。

注3)ABClimit欄下段( )書きは、再評価の数量。 TAC欄下段( )書きは、先行利用分を除いた期中改定後の数量。